

ホウレンソウ「サンオリエントシカ」、「営農竹炭」試験報告

試験圃場：福岡県久留米市／試験報告者：樽見 伸介

10月7日(金)播種のホウレンソウ(品種：ナシ種苗「アイルトン9」)での試験経過確認で11月16日(木)訪問。試験区は全4区(慣行区／サンオリエントシカ区／営農竹炭区／シカ・竹炭混合区)。今回は生育比較と収穫後の作物体硝酸イオン濃度、糖度測定と比較をおこなった。試験資材の施用はいずれもホウレンソウ播種後に行い、「サンオリエントシカ」は粒度 mesh20 を10坪当たり20kgの割合で畝表面へ、「営農竹炭」は2号炭(4mm以下)を10坪当たり30Lの割合で畝表面へ散布した。

■各試験区の生育比較(写真)

各畝単位で見えていくと、特に「営農竹炭区」の地上部の大きさ、生育の良さが目視で確認できた。



慣行区

生育は全体的に小さく、生育にバラつきが見られる。

サンオリエントシカ区

地上部も充実し、慣行区との違いが分かりやすい。

営農竹炭区

畝の土が見えないほど地上部の生育が充実。

シカ+竹炭区

営農竹炭区の次に地上部の生育が良好である。



「慣行区」

「営農竹炭区」

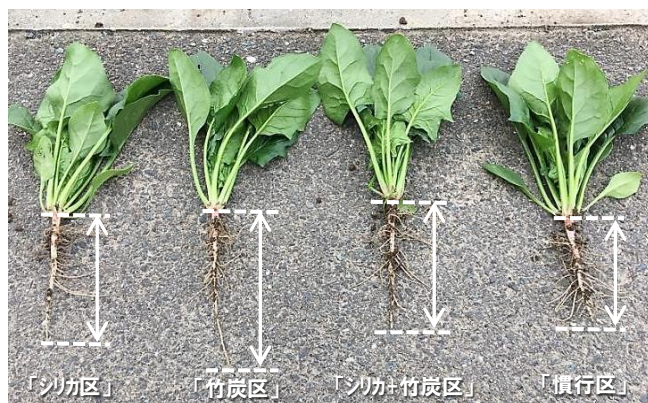
■生育比較(株元、茎の状態)

特に生育が良かった「営農竹炭区」と「慣行区」で、地上部の生育が同じ程度の株で茎の大きさを比較した。写真でもわかる通り、「営農竹炭区」のほうの茎が太く力強く見える。

■地上部の生育と根の状態

「慣行区」：株の大きさ、生育にバラつきがあった。

「営農竹炭区」：株元の土が見えないほど大きく生育。



各試験区の株を抜取り、根の状態を比較した。各区とも根の量に大差はなかったが、直根の伸びに差が見られた。

■作物体硝酸イオンと糖度の比較

硝酸イオンは慣行区の数値が高めであったが、それに比べシカ、竹炭区ともかなりの低減効果があった。特に竹炭区は生育も良く、硝酸値も抑えられて効果が高い。糖度はシカ+竹炭区が最も高かった。今回抜き取り調査した各区検体1株だけの計測であったのでたまたまかもしれないが、慣行区とシカ・竹炭区の硝酸イオンの数値にここまで差が出たことに驚いた。ただ今回の結果ではホウレンソウへのシカ、特に竹炭の効果が高いことが伺える。別の第2試験区の状況でまた確認していきたい。

※検体は全区各1、葉と茎混合にて計測

ホウレンソウ 11/16 収穫分	作物硝酸イオン NO ₃ ⁻ 濃度(ppm)	糖度 Brix(%)	※参考目安
①慣行区	7,600	5	硝酸イオン濃度 ●EU基準値 品目：ほうれんそう 3,500ppm
②シカ区	2,800	6	
③竹炭区	2,200	6	●厚生労働省データ 3560(±552)ppm
④シカ+竹炭区	3,400	6.8	